

その中でも、二つのことは、重きに置いていきます。

一つは、親の目の黒いうちには、子供たちは、仲良いが、親が目を閉じたら、途端に仲たがいで、仲が悪くなる。そのような姿は見たくない。つまり、兄弟仲良く通つてもらいたい、ということでは、もうひとつは、霊様に感謝して通つてもらいたい、ということでは、我々、今、こうして通らせて頂いているのは、祖先の伏せ込みのお陰という意味なのでしょう。

▼身上を通して繋がる家族の輪▲

人は皆、幸せを求めていません。日々幸せになりたくて生きていくのではないのでしょうか。幸せというのは、どのようなものでしょうか。お金があるということなのでしょう。か、いや、健康が第一なのか、人それぞれ幸せと思う内容は違うのかもしれない。

家族に一人でも、身上の方がいたり、また、家族同士仲が悪かったら、喜びも沸いて来ないし、なかなか勇めないでしょう。

「家族の心を一つにして、子供たちを信仰に導きたい」と思っていた。お二人達もご守護頂きたいと前向きでした。身上を知って直ぐ、おぢばがえりをしてくれました。教祖殿合殿の結界の前で、お二人はおさづけの取り次ぎ合いをされたそうです。ふつうは、片方の方が取り次ぎ終えてから、もう一人の方が取り次ぐのですが、何を思ったのか、お二人同時におさづけを取り次ぎあったのです。身上の場所が、胃と食道ですから、拝み合う事ができたのですが、相手が何とかわたすかかってもらいたいのと心意気を感じたのです。教祖殿でおさづけを取り次ぐ方は、大勢おられますが、夫婦で同時に向き合っておさづけを取り次ぐ人は、いないと思います。それも境界の真前で、きつと教祖も、「この夫婦半端ない！」と思われたのでしよう。その後、教祖のご守護としか思えないようなご守護をいただいたのです。更に、東京の長男・次男は飛んできますし、二男の奥さんは、おぢばがえりして別席を運び、地元でいた三男は、毎日おさづけを取り次ぐ。この三男は「会長さん、オレ、どこでもおさづけ取り次げるようになってよ」と言ってくれました。

不思議な出来事がありました。1月10日、私は、教養掛でおぢば・詰所にいまして、朝食後、札幌の姉から、今日は母・多津恵の3年目の命日です、とラインが入りました。あ、忘れてた、と思いきや、直後にその役員の奥さんから電話が入りました。「入院している主人の心臓が止まった。」との連絡。驚きまして、家内に電話ですぐ病院に走つてくれるよう頼み、私はかんろだいに走りまわりました。「何とか、ご守護を頂いてもらいたい、せめて、息子達に親の死に目に会わせて上げてください」と願ったのです。それは、長男だけが、仕事の関係から、7年帰省しておらず、長く父親に会っていなかつたからです。家内は、病院に着いてみると、心臓が止まって1時間。医者が心肺蘇生を行っている最中でした。家内は、医者の治療の隙をみて、おさづけを取り次ぎました。その後、医者が、治療を再開した途端、1時間止まっていた心臓が、何と、動き出したのです。教祖のご守護です。

東京にいる長男・次男が病院到着。札幌の三男は間に合いませんでしたが、息子の到着を待って、出直していきました。親神様・教祖は、願いをお聞き届け下さいました。長男は、今年の夏、関東から子供をこもおぢばがえりに参加させますと、自ら公言。二男は、今月始め、第2子誕生のをびや許しを頂きにおぢばがえりしてくれました。お父さんの葬儀を通して、教会と子供たちの絆が広がったと感じたのです。親神様・教祖の親心を感じさせて頂くできごとでした。

▼楽しんでこそのお道▲

本年、一月、本部春季大祭の神殿講話で、中田善亮表統領先生は、次のようにお話しされました。「道は楽しんで通らねばなりません。時に厳しい道中も、楽しんで通ろうと心を向けていけば、親の心が身にしみてくると思っています。」

最近スポーツ選手が試合に臨む時に「楽しみたいと思いません」と話すのをよく耳にします。「楽しむ」という言葉には、真剣さも、緊張感も、必死な姿勢も含まれています。加えて、それまでの血のにじむような苦労と努力という裏付けがあるからこそ言える言葉であり、それを含めて「楽しむ」という姿勢こそが、大舞台において、緊張感を超えて、全力を発揮することにつながるといふことなのでしょう。

▼おぢばへ帰ろう▲

一人ひとりの心に、親神様・教祖を思い浮かべ、いつも自分を見ていくと、と身に感じ、喜びをもつこと、この点が一番大切な点であります。家族皆が、信仰につながり、その信仰は教会を通して、大教会につながっていく。その大教会という縁でつながっている我々が、只今の旬、大教会の活動方針「おやさまのひながたとは、ようばくを育て増やすこと」初席者104名、中席者280名のご守護。更に二年後に迫る創立100周年のストーリーガン、「創立100周年に向けて、各教会が話し合い心を定めて、一手一つで通ろう」と